



定期点検

定期点検項目	8-2
新車時 1 か月 (または1000km)点検	8-4
6 か月ごとの点検	8-4
12か月ごとの点検	8-6
24か月ごとの点検	8-7
48か月ごとの点検	8-8

定期点検項目

53年排出ガス規制適合の18R - G E Uエンジンとう載車両の排出ガス浄化装置関係およびその関連の定期点検方法をまとめてあります。他の項目については従来の定期点検要領書に基づいて行なってください。

点 検 整 備 項 目		点 検 整 備 時 期	備 考
点 火 装 置	進角装置の機能	6 か月ごと	
原 動 機 本 体	排 気 の 状 態	新車時 1 か月 (または1000km) 6 か月ごと	
ブローバイ ガス 還元装置	メーターリング パルプの状態	12か月ごと	メーターリング オリフィス
	配管の詰まりおよび損傷	↑	
燃 料 蒸 発 ガス 排 出 抑 止 装 置	配管の詰まりおよび損傷	6 か月ごと	チェック パルプとチ ヤコール キヤニスタ は一体である。
	チヤコール キヤニスタの詰まりおよび 損傷	↑	
	チェック パルプの機能	12か月ごと	
	チヤコール キヤニスタの交換	80000kmまたは 48か月ごと	
	チェック パルプの交換	↑	
触 媒 反 応 方 式 排 出 ガ ス 減 少 装 置	本体の取り付けのゆるみおよび損傷	6 か月ごと	
	導管の取り付けのゆるみ、損傷および詰 まり	↑	
	排気温センサ取り付け部のゆるみおよび 損傷	↑	
排出ガス減少装置	減速時制御装置の作動	12か月ごと	フューエル カット システム
電 気 装 置	O ₂ センサ 作動および取り付け状態	24か月ごと	

点検項目

新車時1か月（または1000km）の点検	6か月ごとの点検	12か月ごとの点検	24か月ごとの点検	48か月ごとの点検
1 排気の状態（エンジン暖機後）	←	←	←	←
	1 進角装置の機能 2 燃料蒸発ガス排出抑止装置 (1) 配管などの詰まりおよび損傷 (2) チヤコール キヤニスタの詰まりおよび損傷 3 触媒反応方式排出ガス減少装置 (1) 本体の取り付けのゆるみおよび損傷 (2) 導管の取り付けのゆるみ、損傷および詰まり (3) 排気温度センサ取り付け部のゆるみおよび損傷	←	←	←
		1 燃料蒸発ガス排出抑止装置のチェックバルブの機能 2 ブローバイ ガス還元装置 (1) メターリングバルブの状態 (2) 配管の詰まりおよび損傷 3 減速時制御装置の作動	←	←
			1 O ₂ センサ (1) 作動および取り付け状態	←
				1 チヤコール キヤニスタの交換 2 燃料蒸発ガス排出抑止装置のチェックバルブの交換

8

新車時1か月(または1000km), 点検

排気の状態点検(エンジン暖機後)

- (1) エンジンを停止する。
- (2) 停止後ただちにアクセルペダルを操作しないで再始動する。
- (3) 約3分間のアイドル放置後指示が安定したところでCO, HC濃度を測定する。

CO濃度 1.0%以下

HC濃度 800ppm以下

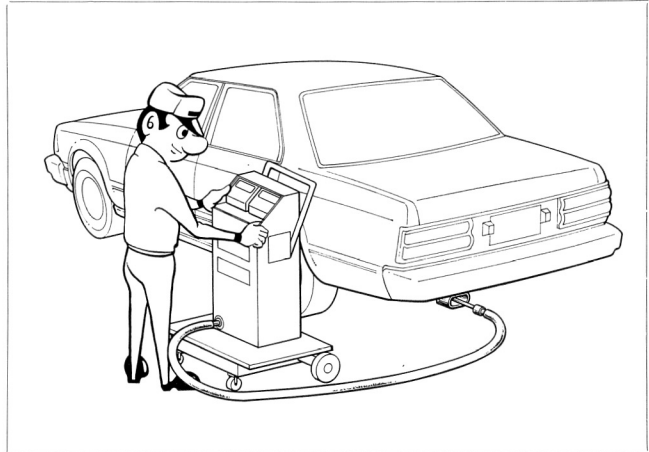


図8-1 CO, HC濃度確認

M7347

6か月ごとの点検

新車時1か月(または1000km)の点検項目に下記項目を追加する。

進角装置の機能点検

- (1) 2番ホースをスロットルボデーのアドバンスポートから抜き、マイティバツクと接続する。

〜〈要点〉〜

アドバンスポートには盲栓をしておくこと。

- (2) エンジンチューナツプテストを接続したのちエンジンを始動する。
- (3) マイティバツクに300mm Hgの負圧をかけ次の項目を確認する。

- ① 冷間時(冷却水温35°C以下)
 - a. 点火時期が変化しないこと
 - b. 負圧の漏れがないこと

- ② 温間時(冷却水温70°C以上)
 - a. 点火時期が進角すること

〜〈参考〉〜

負圧をかける前後で約15度変化する。

- b. 負圧の漏れがないこと

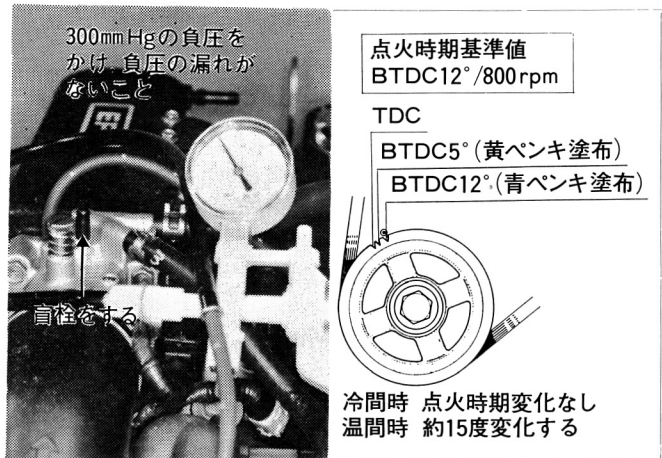


図8-2 点火時期制御装置システム点検

H8024 M6501

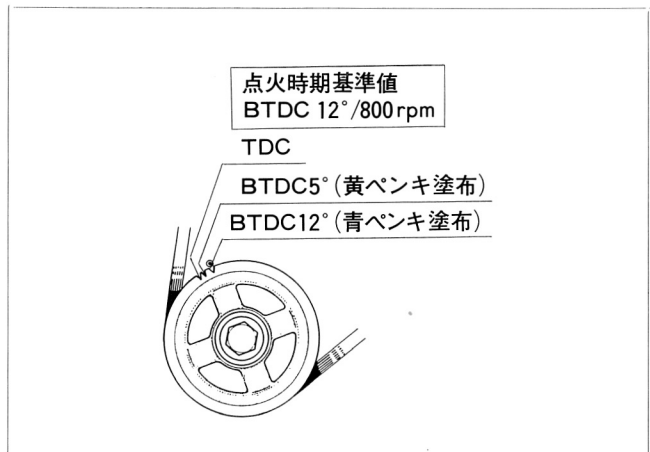


図8-3 点火時期

M6501

燃料蒸発ガス排出抑止装置の点検

- (1) 配管などの詰まりおよび損傷
- (2) チャコール キヤニスタの詰まりおよび損傷

① キヤニスタの詰まり点検

- a 右図A部およびB部に接続されたホースを抜く。
- b A部を吹いたとき通気がなくB部を吹いたときに通気があればよい。

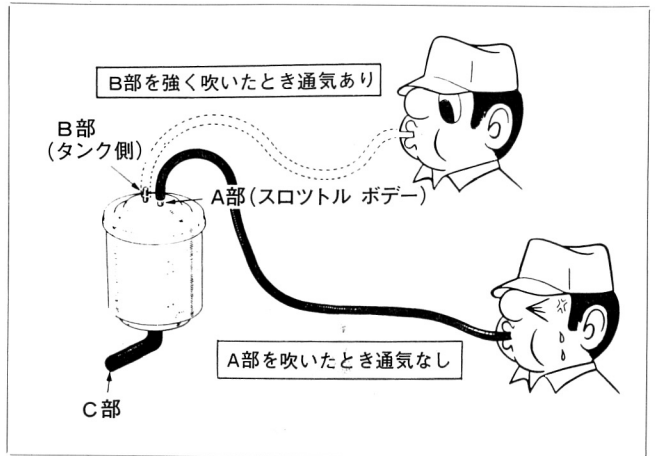


図8-4 キヤニスタ点検 (1)

S8493

- c A部を指でふさぎC部を吹いたとき、B部より通気があること。
- d B部を指でふさぎC部を吹いたとき、A部より通気があること。

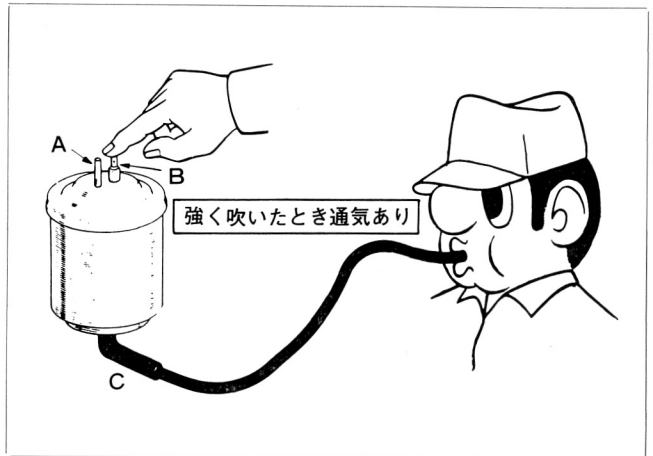


図8-5 キヤニスタ点検 (2)

S9579

触媒反応方式排出ガス減少装置の点検

- (1) 本体 (C C R O A S S Y) の取り付けのゆるみ、損傷
- (2) 導管の取り付けのゆるみ、損傷
- (3) 排気温センサ取り付けのゆるみ、損傷 (配線を含む)

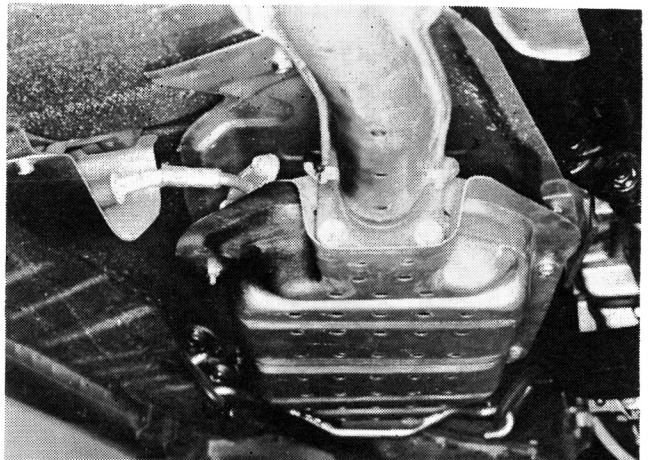


図8-6 三元触媒

H6935

12か月ごとの点検

6か月ごとの点検項目に下記項目を追加する。

燃料蒸発ガス排出抑止装置のチエツクバルブの機能点検

6か月ごとの点検の「チャコール キャニスタの詰まり点検」に含まれる。

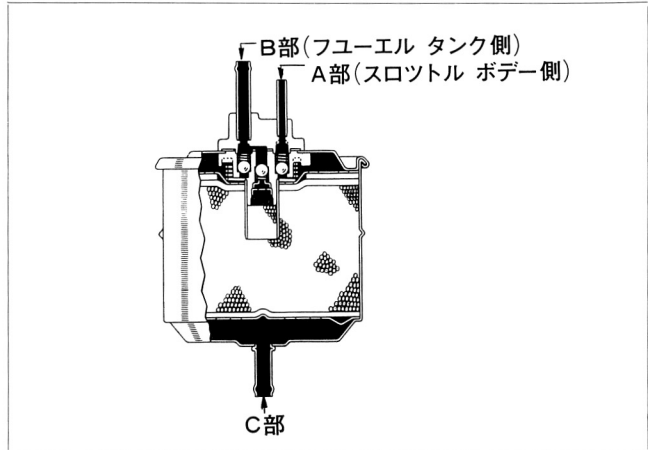


図8-7 キャニスタ断面

M7582

ブローバイ ガス還元装置の点検

(1) メターリング バルブ（オリフィス）の状態点検

- ① サージ タンクのベンチレーション ホース入部より吹いたとき軽く吹けること。

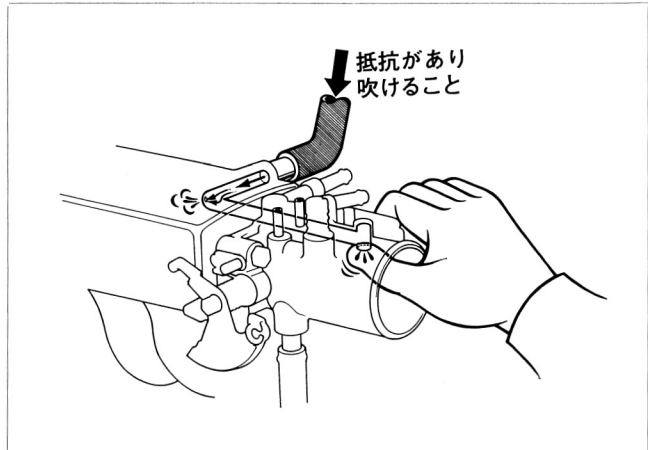


図8-8 ブローバイ ガス還元装置 (1)

M7125

- ② エア クリーナ ホースをはずす。スロットル ボデーのPCVポートをふさいで上記のように吹いたときの抵抗があり吹けること。

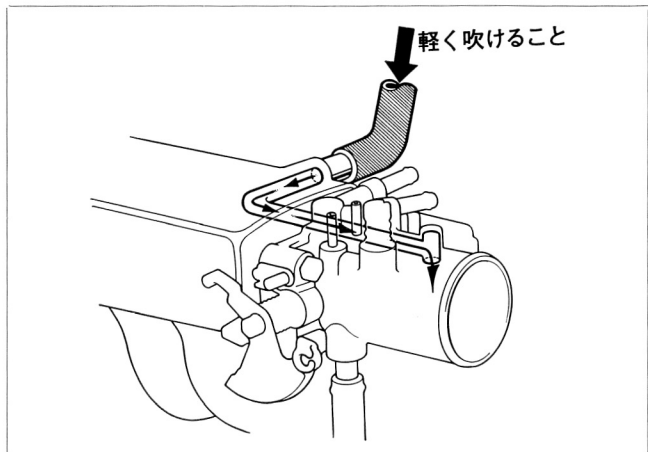


図8-9 ブローバイ ガス還元装置 (2)

M7126

(2) 配管の詰まりおよび損傷

減速時制御装置の作動点検（暖機後）

- (1) スロットル ボデー～エア バルブ～サージ タンク間のホースをスロットル ボデー側およびサージ タンク側でそれぞれはずす。
- (2) スロットル ボデーのユニオンとサージ タンクのユニオンを内径 13.5φ 程度のホースで直結する。

〈参考〉

ヒータ ホースなどを利用するとよい
（長さ800mm程度）

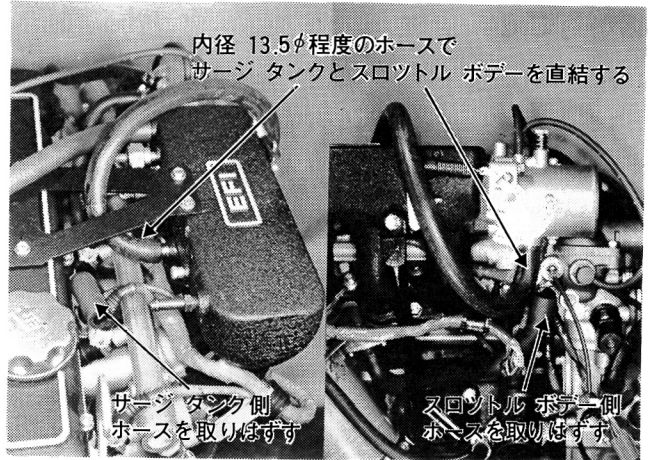


図8-10 減速時フューエル カット システム点検 H8088 H8089

- (3) エンジンを再始動したとき、エンジン回転が約1300～1700rpmの範囲でハンチングを繰り返すことを確認する。

24か月ごとの点検

O₂ センサの作動および取り付け状態点検

- (1) 作動状態点検
 - ① エンジン暖機後、エンジン回転 2500 rpm で 90秒レーシング後 2000rpmで保持する。
 - ② O₂ センサ チェック用コネクタのV_F ↔ E間の電圧をサーキット テスタで点検したとき、指針が10秒間に 8 回以上振れること。

〈注意〉

V_F と E 端子以外の端子には絶対に接触させないこと。

- (2) センサ取り付け後およびゴム チューブ通気口から排気ガスの漏れがないこと。
- (3) クランプ部にゆるみ損傷のないこと。

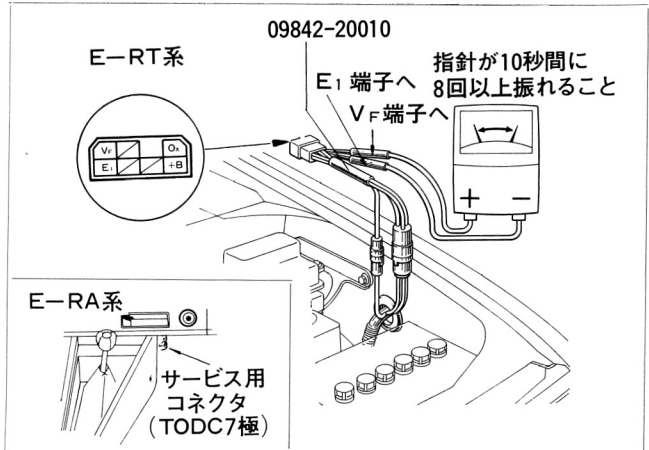


図8-11 O₂ センサ作動点検 M7257 M7506

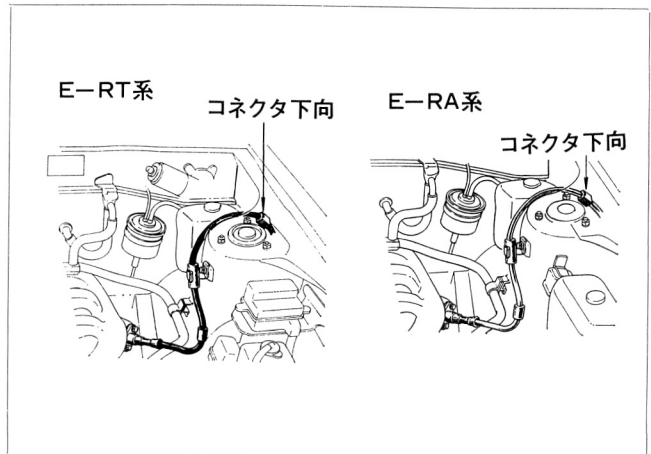


図8-12 O₂ センサ取り付け状態点検 M6485 M7101

48か月ごとの点検

チャコール キャニスタの交換

チエック バルブ（燃料蒸発ガス排出抑止装置）の交換

チエック バルブはキャニスタに内蔵のため一体で交換する。

メ 毛



TMS自動車販売株式会社